

委託事業実施内容報告書

平成24年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【地域日本語教育実践プログラム(A)】

受託団体名 群馬県日本語教育支援政策研究会

1. 事業名称

連動性のある地域日本語教育実践～人材育成・教室活動・教材作成のつながり～

2. 事業の目的

本事業は、群馬県内に定住する外国人住民を対象とし、生活上の行為に不可欠な日本語能力の習得及び運用能力の向上を目的とした日本語教室を設置し、また、そこで活動する支援者の育成、および、教材開発を通して、地域日本語教育の推進を図ることを目的とした。

群馬県内の地域日本語教室では、「生活者としての外国人に適した教材・リソースの不足」「日本語教育に関する専門知識と指導技術に関する不安」といった課題を抱えており、それらの課題を解消するためには、人材養成を柱に、日本語教室と教材作成を連動させる必要がある。

人材育成と実際の教育現場を結びつけることで、研修参加者は「どのような指導法か、教材は何か、教材の使い方はどうか、クラス運営はどうか、参加者のそれぞれの役割はどうなっているか」などを実際にみることができ、座学にはない経験が得られた。教室内容や教材について学べる環境を提供したことで、最終的には自ら教室活動を想定した教材を作成することができた。

3. 事業内容の概要

本事業は、[1]日本語教育を行う人材の養成・研修「ともに学ぶ・ともに作る」、[2]日本語教室の設置・運営「日本語でできた！2012」、[3]日本語教育のための学習教材の作成「日本語でできた！2012」の3事業を連動させて行った。

◆[1]日本語教育を行う人材の養成・研修「ともに学ぶ・ともに作る」

この研修では、「地域日本語教育の基礎知識」、「教室活動」、「教材作成」と研修内容を3つの部分にわけ、各5回、計15回の研修を行った。

まず第1部の「地域日本語教育の基礎知識(第1回～5回)」で、地域日本語教育について考え課題を共有し、実現可能な解決方法を検討した。具体的には、群馬県内の外国人の現状と課題、在留資格の種類、伊勢崎市や高崎市の事例、日本語教室のタイプ、生活支援と日本語支援、家庭・職場・学校・地域での日本語、言語サービスとやさしい日本語、日本語学習支援における学習者・支援者の役割、評価の役割、「標準的なカリキュラム案」の検討などについて扱った。

次に第2部の「教室活動(第6回～10回)」では、生活者としての外国人のニーズ把握、コースデザイン、シラバスデザイン、タスク積み上げ型の日本語教育、易しいタスクと難しいタスクの違い、タスクの構成要素、時系列・活動内容・教育効果の観点から見た教室活動の実際、評価を教室活

動や教材にどう取り入れるか、など、より具体的に教室活動がわかるような研修を行った。また、実際に本事業[2]の日本語教室(日本語でできた!)に支援者として参加してもらい、参加後に活動内容の解説や意見交換を行った。

最後に第3部の「教材作成(第11回～15回)」では、第1部と2部の研修内容、及び、日本語教室への参観で得た知識・技能・経験を基に、自らが参加する日本語教室で利用可能な教材の作成を行った。手順としては、各自が具体的な学習者を想定し、ニーズを洗い出すことからはじめ、教室活動における教材の役割や教材の構成を考え、アイデアの教材化し、教材案作成した。そしてその教材案を使ったシミュレーションとフィードバックを経て、教材を完成させ、最後に、全体での講評を行った。

◆[2]日本語教室の設置・運営「日本語でできた!2012」

日本語教室「日本語でできた!2012」は、10回の教室活動と2回の事前・事後の評価の計12回からなる。この日本語教室は、本研究会で提案している「生活上の課題解決のためのタスク積み上げ型」日本語教育を行った。これは主に以下3点の特徴を持つ。

①生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成

②学習者・支援者が共有できる評価方法の考案

③「課題解決のためのタスク積み上げ型」日本語教室の手法を理解し実行できる人材の育成

①に関しては、「日本語コミュニケーションを通して生活上の困難点を解決する」ことを目指し、参加者全員(生活者としての外国人・ボランティア)で口頭でのやりとり(対話)を通して、課題を達成できるような活動方法で進めていった。

②に関しては、学習者(生活者としての外国人)、支援者(ボランティア)が共有できる日本語能力の評価の在り方を考えるものである。学習者の特性上、ペーパーテストで言語能力を測ることは難しく、ボランティアも学習者の日本語能力を判断しにくいという現状がある。この日本語教室ではこれらの問題を解決するため、ペーパーテストに取って代わる評価基準・方法として「“日本語でできたこと”のチェックリスト」を用いた。チェックリストのチェック項目の変化(増加)などから生活上の問題の解決に向かう段階のどこが足りていないか、どのような日本語能力を伸ばす必要があるのかが学習者及び支援者に可視化され、その解決に向かうための学習意欲をも高めることができた。

③に関しては、地域日本語教室で活動する人材の育成を目指し、本研究会が行う日本語教室で支援者として参加し、実際の教室活動の手法を学ぶもので、本事業の[1]日本語教育を行う人材の養成・研修「ともに学び・ともに作る」と連携して行うものである。ボランティアにとって文化庁の『標準的なカリキュラム案』をもとに具体的な教室活動の方法や教材を作成することは容易ではない。ボランティアには本日本語教室で「課題達成型」の教室活動を体験し、指導法や教材の改善点を模索し、自分の属する教室で実践できるようにした。

◆[3]日本語教育のための学習教材の作成「日本語でできた!2012」

昨年度までに本研究会が作成した教材を基に、『標準的なカリキュラム案』の「生活上の行為」及び「能力記述」を参照し、新たに学習教材を作成した。特徴は、言語行動の頻度と汎用性、及び、学習項目の難易度と項目同士の関連性を軸に据えたシラバスデザインである。また、生活上の困

難点を達成すべき「タスク」として捉え、易しいタスクから、それらが組み合わさったより難しいタスクが達成できるように、学習項目の緩やかに配置する。

分量としては、地域日本語教室の一般的なタームである3ヶ月・10回の学習時間で活用できるように10回分の内容にした。また、学習者の参加の継続性を考慮し、モジュール型で作成するが、1回目に比べ10回目の方が言語的やり取りがより高度になるよう配置する予定である視覚ツールを豊富に盛り込み、他者とのやり取りを想定したロールプレイを随所取り入れて作成した。

4. 運営委員会の開催について

【概要】

第1回運営委員会	日時	平成24年7月20日(金曜日) 16:30~18:30
	場所	群馬県立女子大学 地域日本語教育センター
	参加者	伊藤健人/太田祥一/川端一博/桑原宜徳/木暮律子/本島靖子/森沙耶佳/ヤン・ジョンヨン
	内容	1. 業務計画の説明 2. 各事業計画の説明 3. 全体のスケジュール・内容等の検討
第2回運営委員会	日時	平成24年9月20日(木曜日) 16:30~18:30
	場所	群馬県立女子大学 地域日本語教育センター
	参加者	伊藤健人/川端一博/桑原宜徳/木暮律子/本島靖子/森沙耶佳/ヤン・ジョンヨン
	内容	【報告】1. 募集方法の報告 2. 申し込み状況の報告 【議事】1. 人材の養成・研修のスケジュール・研修内容・担当講師の確認 2. 日本語教室の設置・運営のスケジュール・授業内容・担当講師・評価方法の確認
第3回運営委員会	日時	平成25年2月8日(金曜日) 16:30~18:00
	場所	群馬県立女子大学 地域日本語教育センター
	参加者	伊藤健人/太田祥一/川端一博/桑原宜徳/木暮律子/森沙耶佳/ヤン・ジョンヨン
	内容	【報告】1. 人材の養成・研修「ともに学ぶ・ともに作る」の事業完了報告 2. 日本語教室の設置・運営「日本語でできた！2012」の事業完了報告 【議事】1. 報告書作成について 2. その他

【写真】

■ 第2回運営委員会の様子



■ 第3回運営委員会の様子



5. 日本語教室の設置・運営

(1) 講座名称 「日本語でできた！2012」

(2) 目的・目標

本事業の目的・目標は、①生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成、②外国人学習者とボランティア支援者が共有できる評価方法の考案、③日本語教育を行う人材の育成・研修との連携、の3点である。当然のことながら、3つの中では、生活者としての外国人が生活上の課題を日本語コミュニケーションによって解決できることを第1の目的とするが、被支援者と支援者が共有できる評価方法を考案すること、そして、地域の日本語教室で活動する人材養成・研修(事業[1])との橋渡しとなることも事業に組み入れた。

(3) 対象者 生活者としての外国人

(4) 開催時間数(回数) 全24時間(2時間×12回)

(5) 使用した教材・リソース 『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案カリキュラム案』、日本語能力試験 Can-do 自己評価リスト[話す]を参考にした自作教材

(6) 受講者の総数 7人

(出身・国籍別内訳 アメリカ人1人、フィリピン人3人、中国人1名、ペルー人2名)

※初回のインタビュー時には9名集まったが、2名は日本語能力がゼロに近く、他の受講者との日本語能力の差が著しかった。従って、この2人には高崎市の他の日本語教室を紹介した。

(7) 受講者の募集方法

- ・日本語教室が開催される高崎市の高崎市広報に掲載
- ・チラシを作成し、高崎市国際交流協会等で配布(※配布チラシは下の「資料1」参照)
- ・(財)群馬県観光物産国際協会の多文化共生サイトにて掲載
- ・以前の「日本語でできた！」参加者にメールで通知

(8) 日本語教室の具体的内容

回数	日時	会場	参加人数 (国籍)	授業内容	指導者	補助者	ボラン ティア
1	平成24年 10月26日 18:30~20:30	高崎市 労働 使館	7人 アメリカ1名 フィリピン2名 中国2名 ペルー2名	インタビュー・ 自己評価チェックリスト	1名	1名	
2	平成24年 11月2日 18:30~20:30	高崎市 労働 使	7人 アメリカ1名 フィリピン3名	友達ができた！	1名	1名	3名

		館	中国 1 名 ペルー 2 名				
3	平成 24 年 11 月 9 日 18:30~20:30	東横 イ議 会室	6 人 アメリカ 1 名 フィリピン 3 名 中国 1 名 ペルー 1 名	おすすめが言えた!	1 名	1 名	
4	平成 24 年 11 月 16 日 18:30~20:30	高崎 市使 館	6 人 アメリカ 1 名 フィリピン 2 名 中国 1 名 ペルー 2 名	問い合わせができた!	1 名	1 名	8 名
5	平成 24 年 11 月 21 日 18:30~20:30	高崎 市使 館	6 人 アメリカ 1 名 フィリピン 3 名 中国 1 名 ペルー 1 名	苦情を言うことができた!	1 名	1 名	6 名
6	平成 24 年 11 月 30 日 18:30~20:30	高崎 市使 館	6 人 フィリピン 3 名 中国 1 名 ペルー 2 名	アドバイスができた!	1 名	1 名	7 名
7	平成 24 年 12 月 7 日 18:30~20:30	高崎 市使 館	4 人 アメリカ 1 名 中国 1 名 ペルー 2 名	やめてほしいと思っ ていることが言えた!	1 名	1 名	6 名
8	平成 24 年 12 月 14 日 18:30~20:30	高崎 市使 館	7 人 アメリカ 1 名 フィリピン 3 名 中国 1 名 ペルー 2 名	うまく断ることができ た!	1 名	1 名	4 名
9	平成 24 年 12 月 21 日 18:30~20:30	高崎 市使 館	5 人 アメリカ 1 名 フィリピン 3 名 ペルー 1 名	使い方を説明することが できた!	1 名	1 名	
10	平成 24 年 1 月 11 日 18:30~20:30	高崎 市使 館	4 人 アメリカ 1 名 フィリピン 3 名	お祝いできました!	1 名	1 名	4 名
11	平成 24 年 1 月 18 日 18:30~20:30	高崎 市使 館	5 人 アメリカ 1 名 フィリピン 3 名 中国 1 名	自分の国について説明 できた!	1 名	1 名	3 名
12	平成 24 年 1 月 25 日 18:30~20:30	高崎 市使 館	6 人 アメリカ 1 名 フィリピン 3 名 中国 1 名 ペルー 1 名	インタビュー・ 自己評価チェックリスト・ パーティー	1 名	1 名	3 名

※第4回目から人材養成「ともに学びともに作る」の受講者がボランティア支援者(会話パートナー)として参加した。

(9) 特徴的な授業風景(2~3回分)

【教室活動について】

一昨年度、昨年度同様、本研究会で考案した「生活上の課題解決のためのタスク積み上げ型シラバス」及び教材を用い、日常生活の困難点をタスクとして据え、それらが参加者同士の日本

語コミュニケーションを通して解決できるように教室活動を行った。教室活動の流れは「ウォーミングアップ→タスク1→休憩→タスク2→(タスク3)→振り返り→評価シート」の順で進められた。

[表 1]「日本語でできた！2012」の授業の流れ

時間	内容	実施者
15分	I. ウォーミングアップ ①おしゃべり→当日のタスクに関わる事柄を話し合う ②教材の絵を見せ、困ったこと(課題)への誘導	日本語教師
30分(45分)	II. タスク1 ① 課題の提示(タスクシートをやさしい日本語で伝える) ② 課題解決の方法(全体で話し合う) ③ 実践練習(グループの中で話し合い&ロールプレイ) ④ クラス全体での共有 ⑤ 言語的な挫折を見せたところをフォロー(Focus on Form) ⑥ 場面を変えて、応用練習→タスクの達成	日本語教師 ※②③ではボランティア支援者が会話の相手となる
10分(55分)	休憩	
30分(85分)	III. タスク2(場合によってはタスク3) ※上記①～⑥の繰り返し	
15分(120分)	IV. 振り返り・学習の記録の記入 ①当日の Can-do が書かれたシートを見ながら、隣の人と会話やロールプレイをする ②学習の記録は生活者としての外国人・ボランティア支援者とも記入する ③特に問題があると思われる表現や発音を確認し、フィードバックする	日本語教師 ボランティア支援者



(10) 目標の達成状況・成果

本事業の目的・目標は、①生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成、②外国人学習者とボランティア支援者が共有できる評価方法の考案、③日本語教育を行う人材の育成・研修との連携、の3点である。当然のことながら、3つの中では、生活者としての外国人が生活上の課題を日本語コミュニケーションによって解決できることを第一の目的とするが、被支援者と支援者が共有できる評価方法を考案すること、そして、地域の日本語教室で活動する人

材養成・研修(事業[1])との橋渡しとなることも事業に組み入れた。

地域の日本語教室では、教室開始時に初めて外国人参加者に対面するため、初回時にレベル判定が行われ、準備もできないまま支援活動が始まることも多い。また、生活者としての外国人の特性上、文字言語によるペーパーテストで言語形式における言語知識の有無を問うことは難しく、ボランティア支援者も学習者の日本語能力を判断しにくいという現状がある。この日本語教室ではこれらの問題を解決するため、ペーパーテストに取って代わる口頭能力の評価基準・方法として、教室開始前「自己評価チェックリスト①」、「学習記録「今日勉強したこと」」、教室終了後「自己評価チェックリスト②」の3つの自己評価リスト、及び、事後の自由記述による「アンケート」を用いた。

※教室開始前「自己評価チェックリスト①」は以下の〈1〉を、「学習記録「今日勉強したこと」」は以下の〈2〉を、教室終了後「自己評価チェックリスト②」は以下の〈3〉を、事後「アンケート(自由記述)」は以下の〈4〉を参照。

まず、教室開始初回時に生活上の行為を行う際に頻出する言語行動を一覧にした「自己評価チェックリスト①」を用いて、30項目の自己評価を4段階でチェックしてもらった。言語は日本語のみで、ルビを振っているものを使用した。チェックする際には補助者が口頭でやさしい日本語や例を挙げながら伝えた。外国人受講者の中にはすべての項目に4(できる)を付けたり、あるいは、2(まあまあできる)になっていたりと、インタビュー時とは異なる結果となったものもあった。これは個々人の性格によるものであると考えられ、自己評価の結果を素直に受け止めることには注意が必要であることがわかった。上記の項目と『標準的なカリキュラム案』の「生活上の行為」、日本語能力試験の「Can-do 自己評価(話す)」を組み合わせると全10回分のシラバス及び教材を作成した。

教室の開始時は、毎回の活動の中で当日の達成目標となる行動をシート(学習記録「今日勉強したこと」)にし、自己評価と隣のボランティアの双方向の評価とコメントを入れてもらうようにした。この日本語教室では、毎回、達成目標(Can-do)があり、教室活動の最後に外国人受講者と同じグループにいるボランティア支援者(いない場合は、外国人受講者同士)で自己評価・他者評価を行った。この評価の目的は、毎回の教室での活動を通して日本語でできるようになったことやまだ難しいと思うことなどを記録し、振り返るためのものであり、そのツールとして「今日勉強したこと」を活用した。このシートは毎回授業開始時に教材と一緒に配布し、授業の後半に外国人受講者と隣の人が話し合いを行いながら互いにチェックを入れるようにした。上のコメント欄には外国人受講者が当日の学習で感じたことを日本語や母語で記入し、下のコメント欄にはボランティア支援者が外国人受講者の気になる誤用やうまくできたところ、日本語指導者の指導方法に対する意見など様々な観点から自由に記入するようにした。このような評価は外国人受講者の日本語能力を点数化するためのものではない。このような評価の役割は、外国人受講者と支援者が現時点での日本語能力を可視化することで、受講者は自らの日本語運用能力が足りていないところに気づき、支援者はどこを手助けしていくべきかを知ることができることである。また、そこから新たな対話が生まれるため、受講者と支援者(あるいは、外国人受講者同士)とのコミュニケーションのきっかけとしての役割をも併せ持っている。

教室終了後には、1回目から10回目まで教室で行ったタスクを一覧化し「自己評価チェックリスト②」として、生活者としての外国人自ら伸びを判断してもらうようにした。毎回の授業では、3~4

つほどのタスクの達成を目的に活動を行い、その都度自己評価・他者評価を行ったが、日本語の教室の最終回には毎回の学習の記録でチェックしてもらっていた能力記述を一覧にし、再度自己評価をしてもらった。この評価の目的は、この記録を振り返り、これまでに自分が日本語でできるようになったこととこれからできるようになりたいことを考えてもらうことにある。

毎回の教材に加え、初回の「自己評価チェックリスト」と、毎回の学習の記録「今日勉強したこと」、教室終了後の「自己評価チェックリスト」をポートフォリオにしたことで、チェック項目の変化（増加）などによる学習の成果が可視化でき、毎回参加者が変わっても隣同士に必要な支援を知ることができた。また、このようなチェックリストを使用することによって、指導者としても受講者ができることを確認し、教室活動を考える際の参考にすることができた。生活上の問題の解決に向かう段階のどこが足りていないか、どのような日本語能力を伸ばす必要があるのかを受講者自らが把握でき、その解決に向かうための学習動機を高めることができたと思われる。

なお、3種の自己評価の最後に、この日本語教室で勉強して感じたことを自由記述してもらった。記述は日本語以外でも可にしているがすべての受講者が日本語で書いている。以下、そのコメントを紹介する。

【日本語教室を受講した生活者としての外国人のアンケート記述】

- ①ここ来てから たくさん日本語を 話せるようになり ました。これからも じしんを 持って いろんな人に 会話を します。
- ②この日本語教室で勉強している時、いい雰囲気を感じている。
- ③先生とボランティアの方と 教え方が いいです。普通の生活会話で勉強すると 普段 話すときよく使える。これからも 厳に勉強 したいです。
- ④いまのような べんきょう したいです。
- ⑤日本語のいろいろな たんご おぼえたり おもいだしたり しました。先生、いろいろ お世話になりました。
- ⑥自分が 人の前に話すのが にながてで、クジョウ、モンクを なかなか 言うことが できない。
- ⑦もしできれば かんじのべんきょうを したいなと おもいます。日本のぶんかも もっと べんきょう したいのです。

また、口頭では、「この教室に参加し、たくさん話せるようになった」「外でも自信を持って相手に声がかけられるようになった」「普段の生活で使える会話が勉強できた」との感想が寄せられた。

.....

〈1〉教室開始前の「自己評価チェックリスト①」

できる——まあまあできる——少しできる——できない	
4 — 3 — 2 — 1	
①	質問に「はい／いいえ」と答えることができる
②	質問に「ある／無い」と答えることができる

③	質問に「好き／嫌い」と答えることができる
④	名前を言うことができる
⑤	曜日を言うことができる
⑥	時間を言うことができる
⑦	始まる時間から終わる時間を言うことができる
⑧	人数を言うことができる
⑨	回数を言うことができる
⑩	いつ日本に来たか言うことができる
⑪	誰と住んでいるか言うことができる
⑫	家からここまでの距離を言うことができる
⑬	仕事をしているかどうかについて言うことができる
⑭	自分の(前・いま)仕事を言うことができる
⑮	家族の仕事を言うことができる
⑯	(前・いまの仕事が)どんな仕事か言うことができる
⑰	いまの仕事をするようになった理由を言うことができる
⑱	どんな家に住んでいるか言うことができる
⑲	(家や会社で)誰が何をすることを言うことができる
⑳	二つの中から一つを選んで答えることができる
㉑	いいところ／悪いところを比べながら言うことができる
㉒	おすすめの物／場所を言うことができる
㉓	物の形や模様、大きさを言うことができる
㉔	おすすめの理由を言うことができる
㉕	旅行などの経験を言うことができる
㉖	場所までの行き方を言うことができる
㉗	何かが好き／嫌いな理由を言うことができる
㉘	欲しい物があったとき、なぜそれが欲しいか言うことができる
㉙	願望を言うことができる
㉚	願望の理由を言うことができる

.....

【<2>毎回の学習の記録:「今日勉強したこと」(2回目の授業のもの)】

<日本語でできた!②>

今日 勉強したこと

月 日 曜日 名前: ボランティア:

今日、勉強したこと	あまりできない—まあまあ—普通—よくできた 1 — 2 — 3 — 4
(1)自分だけが知っていることを話すとき、まず相手がそれを 知っているかどうか聞くことができる	わたし : 1 — 2 — 3 — 4 ボランティア: 1 — 2 — 3 — 4
(2)相手に自分がほしい情報(おすすめのもの・場所など)を 聞くことができる	わたし : 1 — 2 — 3 — 4 ボランティア: 1 — 2 — 3 — 4
(3)相手の意見(ほしいもの・こと)を聞いて、おすすめを言うこ とができる	わたし : 1 — 2 — 3 — 4 ボランティア: 1 — 2 — 3 — 4
(4)おすすめを言うときに、なぜそれがいいのかわかる理由を説明 することができる	わたし : 1 — 2 — 3 — 4 ボランティア: 1 — 2 — 3 — 4
(5)場所の位置や行き方を説明することができる	わたし : 1 — 2 — 3 — 4 ボランティア: 1 — 2 — 3 — 4

今日勉強して感じたこと

【支援者の皆様へ】

(1)~(4)ができるようになることが今日の目標です。
ボランティアの方はこれができるように話を進めてください。
※より、詳細に話せたら「4」に近いと考えてください(何となくわかる・理解できるであれば2~3です)
※なるべく一般的に使う、やさしい日本語で話してください。
※グループで作業をするときは、学習者の発話を多く引き出すことを意識して接してください。
※学習者から発話が出てこないときは、新しい言葉を教えたり、書いてあげたりしてください。

【備考】その他、気づいたことがありましたら書いてください。

著しく誤用(間違い)が気になるときは、何が気になるか書いてください。

【<3>教室終了後の「自己評価チェックリスト②」】

No	~することができる
1	相手とあいさつをしてから、天気や最近のエピソードなど、話を続けることができる
2	自分のこと(出身、日本に来た時期、家など)を説明することができる
3	どこで、どれくらい日本語を勉強したか説明することができる
4	どこで、どのような仕事をしているか説明することができる
5	自分だけが知っていることを話すとき、相手がそれを知っているかどうか聞くことができる
6	自分が知っていることを他の人に言うことができる
7	相手に自分が聞きたいこと(おすすめのもの・場所など)を聞くことができる
8	相手の話(ほしいもの・知りたいこと)を聞いて、おすすめを言うことができる
9	おすすめを言うときに、なぜそれがいいのかわかる理由を説明することができる
10	場所の位置や行き方を説明することができる
11	(電話で)話を始めることができる

12	どうして電話をしたか言うことができる
13	物の種類、形、色などについて説明することができる
14	郵便局で日本や海外に郵便物(手紙、プレゼントなど)を送ることができる
15	人の見た目や性格などについて説明することができる
16	どんなことがあったか状況を説明することができる
17	(失礼にならないように)苦情・文句を言うことができる
18	前にあったエピソードを「いつ・どこで・だれが・なにを・どのように」がわかるように、まとめて話すことができる
19	相手と話すときに、共感したり、感想を言ったりすることができる
20	「そうなんですか／へえ／そうそう」などのようなあいづちをしながら話を聞くことができる
21	自分の普段の生活や仕事などについて話すことができる
22	「例えば～」のように、例を言いながら話すことができる
23	相手の気分を悪くしないように、自分がいいと思う方法を言ってあげることができる
24	言いにくい話(お願い・断りなど)を切り出すことができる
25	相手を説得するために、必要なこと(情報)を話すことができる
26	話をうまく終わらせることができる
27	これから言いたいことを簡単に話すことができる(切り出し)
28	相手の話を断りたいときのあいづちができる
29	お願いする理由(事情)を説明することができる
30	相手の気分が悪くならないように、断る理由(事情)を説明することができる
31	欲しいものの名前、形、色、値段を簡単に説明することができる
32	なぜそれが欲しいか理由を言うことができる
33	相手がわかる言葉で道具の使い方を説明することができる
34	自分が知っている料理の作り方を説明することができる
35	相手の都合を聞いて、会う日時を決めることができる
36	伝言を残すことができる
37	伝言を他の人に伝えることができる
38	電話で遅刻や欠席の連絡ができる
39	メールで遅刻や欠席の連絡ができる
40	友人や同僚とパーティーの計画や準備などについて話し合うことができる
41	自分の国にある行事(イベント)の名前や時期を言うことができる
42	自分の国の行事で何をするのか、どうしてするのか説明することができる
43	自分の国と日本の習慣やマナーを比べて、違いを説明することができる
44	自分の国の行事を紹介するための発表をすることができる

(11) 改善点について

本講座の改善点として、①言語技能別及び複数の場所での日本語教室の設置・運営の必要性、

②ボランティア支援者の相談役の必要性、③評価方法の普及の3点が挙げられる。

①は、学習ニーズに合った教室と学習機会を増やすことが必要である。外国人受講者の中には口頭能力と読み書き能力の差が著しく大きい場合もあり、また読み書きをニーズとする人もいる。本教室は口頭能力の向上を目的としていたため、読み書きに関しては支援の対象にしていない(場合によっては休み時間のたびに手助けすることがある)。従って、読み書きを取り入れた別の教室を設けるなどの対応が必要であると思われる。また、教室の場所・時間帯にも課題が残る。本年度は高崎市労使会館で授業を行ったが、高崎市在住以外の外国人受講者には学習の機会を設けられていない。さらに、時間帯も平日や土日の昼・夜など個々人の事情によって希望する時間が異なる。学習者のニーズを考慮し、場所と時間帯を変えた複数の教室を設置・運営することで改善されると思われるが予算と人材の課題が残っている。今後、当団体では少ない数ではあるが同様の取組を継続していく予定である。

②は、日本語教育を行う人材の養成・研修の受講者が本日本語教室にボランティアとして参加して得た学びを今後の活動に活かすためには、日本語教室活動全般を統括し支えることのできる人の存在が欠かせない。研修参加者からは自分で考えた学習内容や指導法がうまくいかなかったときの相談役(コーディネーターやアドバイザー)が欲しいという意見も多く、より専門性を持った人材の確保が望まれる。本研究会は小さな団体であるが、今後もボランティア支援者の相談に対応していくことで一歩ずつ改善を図っていく予定である。

③は、学習者にとっては日本語学習の目標・計画を立てられ、支援者(指導者)にとっては教室活動の参考になり、協力者にとっては必要な支援を考えるための「評価のあり方」を普及していく必要がある。そのためには学習者・支援者、協力者がその意義を理解が必要である。今後もボランティア日本語教室との連携を図り、ポートフォリオによる評価方法の普及を図っていく予定である。

6. 日本語教育を行う人材の養成・研修の実施

(1) 講座名称 「ともに学び・ともに作る」

(2) 目的・目標

全15回の講義と、3回程度の日本語教室への参加を通して、①地域日本語教育の基礎的な知識を修得し、②本研究会の「生活上の課題解決のためのタスク積み上げ型」の考え方や手法を理解した上で、③それぞれの活動で使える教材の作成を行うことを目的とした。

(3) 対象者 生活者としての外国人に対する日本語教育支援に携わる方

(4) 開催時間数 45時間 (3時間×15回 (この他、日本語教室への参加3回(6時間)程度))

(5) 使用した教材・リソース 自作の教材、および、「日本語でできた!」で使用した教材

(6) 受講者の総数 17人 (出身・国籍別内訳 日本15人、中国2人)

(7) 受講者の募集方法

- ・チラシを作成し、高崎市国際交流協会・伊勢崎日本語ボランティア協会等で配布
(※配布チラシは、下の「資料2」参照)
- ・群馬県立女子大学のHP、(財)群馬県観光物産国際協会の多文化共生サイトにて掲載
- ・昨年度までの本研究会が実施したボランティア研修の受講者にメールで通知

(8) 養成・研修の具体的内容

回数	日時	会場	参加人数 (国籍)	授業内容
1	平成 24 年 10 月 9 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	17人 日本 15 人 中国 2 人	地域日本語教育の基礎知識1 (群馬県内の外国人の現状と課題/在留資格の種類)
2	平成 24 年 10 月 16 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	17人 日本 15 人 中国 2 人	地域日本語教育の基礎知識2 (伊勢崎市の事例/高崎市の事例)
3	平成 24 年 10 月 23 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	15人 日本 13 人 中国 2 人	地域日本語教育の基礎知識3 (日本語教室のタイプ/生活支援と日本語支援/家庭・ 職場・学校・地域での日本語/やさしい日本語)
4	平成 24 年 10 月 30 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	17人 日本 15 人 中国 2 人	地域日本語教育の基礎知識4 (日本語学習支援における学習者・支援者の役割)
5	平成 24 年 11 月 6 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	17人 日本 15 人 中国 2 人	地域日本語教育の基礎知識5 (評価の役割/様々な役割/「標準的なカリキュラム案」 の検討)
6	平成 24 年 11 月 13 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	17人 日本 15 人 中国 2 人	教室活動1 (コースデザインとは-生活者としての外国人のニーズ 把握-)
7	平成 24 年 11 月 20 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	16人 日本 14 人 中国 2 人	教室活動2 (シラバスとは-生活者としての外国人のニーズに応 える学習項目-)
8	平成 24 年 11 月 27 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	16人 日本 15 人 中国 1 人	教室活動3 (タスク積み上げ型の日本語教育とは-易しいタスクと 難しいタスクの違い/タスクの構成要素)
9	平成 24 年 12 月 4 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	14人 日本 12 人 中国 2 人	教室活動4 (教室活動の実際-時系列、活動内容、教育効果の観 点から-)
10	平成 24 年 12 月 11 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	14人 日本 12 人 中国 2 人	教室活動5 (評価を教室活動や教材にどう取り入れるか)
11	平成 24 年 12 月 18 日 16:30~19:30	群馬県立 女子大学	14人 日本 13 人 中国 1 人	教材作成1 (教室活動における教材の役割、教材の構成)

12	平成 25 年 1 月 15 日 16:30～19:30	群馬県立 女子大学	12 人 日本 11 人 中国 1 人	教材作成2 (教材の構成 (1)スキーマ活性化のためのアクティビ ティ、(2)Q&A、(3)ロールプレイ、(4)言語知識)
13	平成 25 年 1 月 22 日 16:30～19:30	群馬県立 女子大学	13 人 日本 12 人 中国 1 人	教材作成3 (アイデアの教材化、教材案を使ったシミュレーショ ン)
14	平成 25 年 1 月 29 日 16:30～19:30	群馬県立 女子大学	10 人 日本 9 人 中国 1 人	教材作成4 (教材案を使ったシミュレーションへのフィードバック)
15	平成 25 年 2 月 5 日 16:30～19:30	群馬県立 女子大学	9 人 日本 8 人 中国 1 人	教材作成5 (教材の完成、全体での講評、まとめ)

(9) 特徴的な授業風景



(10) 目標の達成状況・成果

①検証方法：受講生に対するアンケート

研修の受講者に対して研修終了後に以下の 7 項目に関するアンケートを実施し、10 名から回答をいただいた（無記名回答）。

- Q 1 この研修を受けようと思った理由は何ですか？ （選択）
- Q 2 研修の内容はどうでしたか？ （選択）
- Q 3 現在どのような教材を使っていますか？ （記述）
- Q 4 それらの教材の良いところ、悪いところを自由にお書きください。 （記述）
- Q 5 ご自身の関わる日本語教育支援に足りないものは何だと思えますか？ （選択）
- Q 6 研修で学んだことを今後の活動でどう活かしていきたいですか。 （記述）
- Q 7 ご自身が現在の活動を通して感じる地域日本語教育における課題について自由にお書きください。 （記述）

以下、「目標の達成・成果」の評価に関わる、アンケート Q 1、Q 2、Q 5、Q 6 の回答結果と受講者からの意見を整理して挙げ、それに対する本研究会のコメントを記す。

【Q1 この研修を受けようと思った理由は何ですか？】

回答項目	回答数 (複数回答有)
(1) 研修の内容に興味を持った	6
(2) 日本語教育支援活動に関するスキルアップ	5
(3) 地域の日本語教育全般に関する幅広い知識を得る	2
(4) 他の日本語教室で活動している方々との交流	1
(5) その他	1

「内容に興味を持った」が特に多く、教材作成の研修が受講者のニーズに合っていたことがわかる。また、「スキルアップ」の回答数も多く、教材作成に関する知識をはじめ、日本語教育全般に関わる知識・技能を学びたいということも参加の動機になっていたことがわかる。

【Q2 研修の内容はどうでしたか？】

回答項目	回答数
(1) 大変満足している	6
(2) 満足している	4
(3) あまり満足していない	0
(4) 不満である	0

「大変満足している」が最も多く、「満足している」と合わせて、すべての受講者が満足する内容の研修が行えた。また、教材作成の知識やノウハウを学びながら、受講者同士で経験や悩みを共有する機会にもなった。

改善すべき点としては、「作った教材についての講評に、もっと時間をかけて質疑応答ができれば、更に理解が深まったのではないかと思います。」というコメントがあったことから、より時間をかけたフィードバックや振り返りが必要だったともいえる。これは今後の課題としたい。

【Q5 ご自身の関わる日本語教育支援に足りないものは何だと思いますか？】

回答項目	回答数 (複数回答有)
(1) ニーズ分析	2
(2) シラバス作成	5
(3) 教材作成や教材選択	2
(4) 指導法・授業の進め方	6
(5) 評価法	3
(6) その他	2

受講者の方々が足りないと感じているものは、「シラバス作成」「指導法・授業の進め方」が最も多かった。また、「その他」を選んだ受講者からは、以下のようなコメントがあった。

【Q5 ご自身の関わる日本語教育支援に足りないものは何だと思いますか？】

【「(5) その他」を選んだ受講者からのコメント】

- a. 先輩達の教材・授業の進め方がオープンにされていない
- b. 各自が一国一城の主でやっている。でもそれでいいと思っている。というか、それがいいからやられている。実際問題、統一は不可能だと思うし、コントロールの強いところでは私はやれません。

共通して言えるのは、教材や支援(教育)方法が共有化されていないということであろう。これが a では、経験のあるベテランの支援者から経験の浅い支援者への知識・情報・技能の伝授がなされていないという否定的な見方となっている。一方、b では、その閉鎖性を肯定も否定もせず、支援者の独自性を尊重すべきだという考えと言えよう。

Q6 は、自由記述であったが、おおむね4つのカテゴリー（「教材作成」「支援(教育)方法・教室活動」「タスク積み上げ」「その他」）に分けられる。

【Q6 研修で学んだことを今後の活動でどう活かしていきたいですか？】

1.教材作成の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・学習者のニーズに合わせた自作教材の作成に活かす ・地域で生活しやすいような生きた教材を作成する ・学習者にあった教材づくり
2.学習者中心の教室活動や指導法	<ul style="list-style-type: none"> ・できるだけ学習者が自分の言葉で話す時間を増やせるように、授業の組み立てを工夫する ・シラバス作成とロールプレイの活用 ・学習者主体の指導を心掛ける ・従来の教え方(文法積み上げ式)にとられない授業の進め方
3.タスク積み上げの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回自作教材を使うのは難しいが、タスク積み上げ型の支援を推進したい。しかし、現状の日本語教室では、教材を含めて日本語学校を意識した文型積み立て型を踏襲する支援者が圧倒的に多い。そんな環境の中で、特に経験の浅い支援者が独自の道を開くのは難しいと思うので、その応援もしていきたい。
4.その他	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は、仕事の都合で、途中まででしたが、日本語教育や地域が抱える課題を少し感じる事ができました。また、自分が外国語を学ぶという意識も変わってきました。今後必ずいつか、また機会をみつけて活動につなげたいと思っています。 ・「今日はこれを覚えた」という達成感、満足感は大事だと前から思っていました。だから今日はこれを覚えましたねということは、必ず言うようにしていました。でも、すごくランダムだったし、ピンポイント的だったので、

もう少し体系的に「これを覚えた」と思える構成をしようと思います。

1. については、受講者の「学習者のニーズに合わせた自作教材の作成」「地域で生活しやすいような生きた教材を作成する」などの記述から、生活者としての外国人のニーズにあった教材作成の工夫が試みられるであろう。

2. については、受講者の「できるだけ学習者が自分の言葉で話す時間を増やせるように、授業の組み立てを工夫する」や「学習者主体の指導を心掛ける」などの記述から、学習者の発話機会が増えるような学習者中心の教室活動が試みられるであろう。

3. については、本研究会で提案する「タスク積み上げ型」の日本語支援が推進されるであろう。

4. については、研修の内容そのものとは直接は関わらないが、受講者自身が日本語教育支援活動での気づきや動機付けに本研修が役立ったと言えよう。

これらのアンケートへの回答を踏まえ、以下に研修内容の自己評価について記す。

②研修内容の自己評価

本研究会の研修内容に対する評価は、直接的にはアンケートのQ2(研修の内容はどうでしたか?)に対する回答(大変満足している(6/10)、満足している(4/10))から、高い評価が得られたと言える。他の項目も含め、主な評価ポイントは以下の3点である。

- 1 : 受講者の参加動機と研修目的が一致していた
- 2 : 受講者から高い満足度を得られた
- 3 : 日頃の活動内容・使用教材について振り返る機会や今後の活動のヒントが提供できた

【1 : 受講者の参加動機と研修目的が一致していた】

受講者の参加動機と、研修目的が一致していたと考えられる。これは、アンケート項目の「Q1 この研修を受けようと思った理由は何ですか？」で、「(1) 研修の内容に興味を持った」を10名中6名が、「(2) 日本語教育支援活動に関するスキルアップ」を10名中5名が選んだことからもうかがえる。本研修では、“タスク積み上げ型シラバス”を基にした教材作成の講義と演習を実施しており、これが「スキルアップ」という参加動機とも一致したと考えられる。

【2 : 受講者から高い満足度を得られた】

「Q2 研修の内容はどうでしたか？」の回答は、「大変満足している」が10名中6名、「満足している」10名中4名であり、本研修内容に対する受講者の満足度は高かったことがわかる。

【3：日頃の活動内容・使用教材について振り返る機会や、今後の活動のヒントが提供できた】

「Q5 ご自身の関わる日本語教育支援に足りないものは何だと思いませんか？」に対する回答からは、受講者自身が「シラバス作成」「指導法・授業の進め方」などを振り返る機会が提供できたことがわかる。また、「Q6 研修で学んだことを今後の活動でどう活かしていきたいですか？」の自由記述から、今後、受講者が【生活者としての外国人のニーズにあった教材作成の工夫】や【学習者中心の教室活動】を試みようとしていることがわかる。さらに、従来の考え方とは異なった“タスク積み上げ型”の教室活動に基づき教材作成を行ったことで、新たな日本語教育の考え方・方法に触れると同時に、今後の活動のヒントを提供できたといえよう。

このような点から、本研修は受講者にとって意義のある研修だったと結論づけられる。

(11) 改善点について

上でも述べたように、研修の内容に関してはおおむね問題はなかったが、実施体制について、特に、研修会場については課題が残る。これは、地理的な要因が大きいのであるが、群馬県のように公共交通機関が発達しておらず、自家用車での移動が中心であり、かつ、移動距離が長い地域では、研修会場をどこにするかが大きな問題となる。本年度は、群馬県立女子大学で研修を行ったが、隣接する高崎市、伊勢崎市、前橋市などに在住する方しか現実的には受講できなかった。受講者の多くは、自動車で1時間程度、もしくは、それ以上かけて会場に集まってくれた。そのため、このような研修を行う際には、やはり、同じ内容を複数の会場で行う必要があると思うが、時間と講師の手配を考えると難しいと思われる。

なお、研修の内容や実施体制に関する改善点ではないが、地域日本語教育に日々従事する支援者が感じている課題や問題点を受講者アンケート「Q7: ご自身が現在の活動を通して感じる地域日本語教育における課題について自由にお書きください」のへ回答を基にまとめたい。自由記述を内容別に分類すると、以下のことが課題として挙げられていた。

- ①ボランティア日本語教室のあり方や、ボランティア支援者の活動環境
- ②生活者としての外国人をとりまく環境
- ③教室活動の進め方や教材

実際の活動に携わっている支援者として、地域の日本語教室の教室活動の進め方や教材など具体的な内容に対する課題はもちろんのこと、ボランティア日本語教室のあり方や支援者の活動環境、そして、生活者としての外国人の日本語学習や生活環境といった構造的な課題への問題提起や意見が多く述べられていた。このような課題は地域全体、国全体で取り組むべき課題であろう。

以下、いただいた回答を抜粋して紹介する。

①ボランティア日本語教室のあり方や、ボランティア支援者の活動環境

<ul style="list-style-type: none"> ・日本人が、日本の中で外国語を学習するには、結構な費用をかけているのに対し、生活者のための日本語教育がほぼ無料であるという事実に対し、違和感を感じました。教える人はボランティアの志で良いのですが、学習者のニーズ、モチベーションに合う教育のためには、それに応じた対価を求めることも有りではないでしょうか。 ・ボランティアの活動も意義あることだが、ある程度の報酬を支払うことにより指導者の質も確保できると思われる。 ・行政がボランティアに任せきりにせず、主導的に統括すべき。 ・学習者のニーズと、現状のボランティアによる日本語教室が、10回程度の短期で出来る支援のギャップは大きい。コーディネーター、アドバイザーの配置などを含めた日本語教室の体制づくりに、自治体及び関係機関が一体になって取り組んでいただきたい。
<p>②生活者としての外国人をとりまく環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンパブの従業員の人たちが、お店の車の送迎でグループで来ていたことがあります。日本で知っているのはお店とアパートと、日本語教室だけです。週に一回の日本語教室だけが、唯一の外出だそうです。3ヶ月すると、そのまま空港に行って帰国します。語学の勉強が好きな人ならいいですが、そうでない人に、名詞＋動詞などというのが気の毒でした。何か日本語教室として楽しかったと思ってもらえる方法はないかと、今でも思います。 ・せつかく話せるようになって、地域社会に入っているのか？（生活する上での日本語が話せるようになって、最低限の生活が出来るようになるだろうが、その後も、日本人と知り合ったり、話す機会は少ないような気がするので、日本で(地域住民として)充実した生活を送っているのか？その必要性の有無と認識は？) ・ボランティアとして無料で授業を行っているため、授業を簡単に休んだり来なくなったりする外国人がいる。
<p>③教室活動の進め方や教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の学習者の中には、ニーズの違い・コミュニケーション力の優劣があっても授業はつい低いレベルに合わせざるを得ない。 ・複数の学習者には必ずしも個々のニーズに対応できていないので反省している。 ・以前経験したことに対する課題としては、教科書が決まっています、それに沿って学習が進んでいくという指導法だったので、学習者が定着しなかったです。しかし、今回研修を受けたような指導法なら、学習者も楽しく日本語を身に付けられると思いました。 ・通常の生活には不自由しない程度に話せるが教室に来ている人のニーズを考えるのが難しい。 ・教材や指導に活かせる資料等を共有する環境が整っていない。

7. 日本語教育のための学習教材の作成

(1) 教材名称 「日本語でできた！2012」

(2) 対象 生活者としての外国人

※簡単な挨拶、身近な話題は話せるが自ら日本人に声をかけることが困難な人や

まとめて話すことに不安のある人が対象

(3) 目的・目標 生活上の課題を日本語コミュニケーションによって解決する

※「話す/聞く/やり取り」能力の向上を目的とする

※「読む/書く」は対象にしていない

(4) 構成 スキーマ活性化のための絵、クイズ、Q&A(一問一答)などのアクティビティ、
タスク1・2(課によってはタスク3有り)、今日の言葉(文型・語彙・表現のまとめ)、
次回の予告

※A4 表裏両面印刷が望ましい

注意: 本教材は以下の「使い方: この教材を用いる際の授業の進め方」を前提として作成している

(5) 使い方

◆この教材を用いる際の授業の進め方◆

- ・授業の参加者は、指導者・外国人受講者・ボランティア支援者である。
- ・クラス活動を前提としているが、3~4人の小グループでも使用可能である。
- ・10人を超える場合は、2~3の島(グループ)に分かれて活動を行うが、話題はクラス全体で共有する。
- ・教室活動は基本的に「ウォーミングアップ」→「タスク1」→「タスク2」→「振り返り」の順に進められる。以下、その具体的な内容を記す。

<授業の流れ>

時間	内容	実施者
15分	I. ウォーミングアップ ①おしゃべり→当日のタスクに関わる事柄を話し合う ②教材の絵を見せ、困ったこと(課題)への誘導	指導者
30分(45分)	II. タスク1 ① 課題の提示(タスクシートをやさしい日本語で伝える) ② 課題解決の方法(全体で話し合う) ③ 実践練習(グループの中で話し合い&ロールプレイ) ④ クラス全体での共有 ⑤ 言語的な挫折を見せたところをフォロー(Focus on Form) ⑥ 場面を変えて、応用練習→タスクの解決	指導者 ※②③では ボランティア 支援者が会 話の相手と なる
10分(55分)	休憩	
30分(85分)	III. タスク2(場合によってはタスク3)※上記①~⑥の繰り返し	
15分(120分)	IV. 振り返り・学習の記録の記入 ①当日の学習の記録を見ながら、隣の人と会話やロールプレイをする ②学習の記録は外国人・ボランティア支援者との記入する	指導者・ ボランティア 支援者

	③特に問題があると思われる表現や発音の確認し、フィードバックする	
--	----------------------------------	--

【Ⅰウォーミングアップ】 …15分程度

当日の「タスク」に関わる“困ったこと”が想起できる絵や写真、クイズ、一問一答などを参加者に投げかける(注:ここでの参加者とは、外国人だけでなく、ボランティアも含めたすべての参加者を指す)。その問いかけに対して、参加者の誰か(理想的には、外国人受講者であるが、難しければボランティア、それでも出てこなければ指導者の順)が答える。さらに、その発話に他の誰かが加わるというように、教室全体で様々な話題を共有する。

【Ⅱタスク1】 …30分程度

以下の①～⑥のような手順を進めていく。

- ①タスクの提示・明確化(「～がしたい! でも、できない…」というように明示的に示す)
- ②そのタスクを解決するために必要な言語行動について話し合う(ボランティアを含んだ3～4人のグループ)
- ③グループの中でロールプレイを試みる
- ④クラス全体での発表(数名にみんなの前でロールプレイを行ってもらう)
- ⑤うまくいった場合はタスクの解決(「～ができた!」)、うまく行かなかった場合は言語的な挫折を見せたところをフォロー(Focus on Form)
- ⑥場面を変えて、応用練習

※タスクを明示してからすぐにクラス全体でのロールプレイを行わない理由は、学習者への心理的な負担を減少させるためである。さらに、小さなグループで話し合いをすることでグループごとに複数の解決法が出てくることがあるので、それらも有効な教材として使用できる利点もある。

※活動の中の様々な会話の中で、外国人受講者にとって難しいと思われる表現は、黒板に書き出しておき、会話が途切れないように一連の発話の後に説明する。取り上げる表現には、あらかじめ想定していたもの(今日の言葉)と会話の中で偶然出てきたものの両方がある。

【10分の休憩】

【Ⅲタスク2】 …30分程度

別のタスクで、上記①～⑥を行う。

もし易しかった場合は、指導者は他の場面や状況を与える(タスク3)。

【Ⅳ振り返り・学習の記録】 …15分程度

学習の記録を付ける。当日のタスクをやさしい日本語化したものを用意し、外国人受講者と隣のボランティア支援者や他の外国人受講者同士で会話や簡単なロールプレイをし、評価し合うようにする。必要に応じて、そのタスクを行うのに必要な表現を取り上げ、語彙的、文法的、談話的な点に関する説明を行う。最後に、当日の活動全体に関わる質問等を受ける。

(6) 具体的な活用例 例:第2回目「おすすめが言えた!」

<おすすめが言えるために必要な言語行動(中タスク)>

・自分だけが知っていることを話すとき、相手がそれを知っているかどうか聞くことができる

- ・相手に自分がほしい情報(おすすめのもの・場所など)を聞くことができる
- ・相手の話(ほしいもの・こと)を聞いて、おすすめを言うことができる
- ・おすすめする理由を説明することができる
- ・場所の位置や行き方を説明することができる

【Iウォーミングアップ】

日本語でできた！
(2)

スキーマ活性化のための一問一答です。相手の発話に対して何か言いたい気持ちになれば十分です。

【友人の一言に、あなたは何を言ってあげますか？】

友人の一言	あなたはどうしますか？
最近、太ってきちゃって...	
天気もいいし、旅行とかしたいよね。	
美味しいうどんが食べたいな。	



一問一答でいきなりアドバイスをし始めることがあるので、ここで簡単に言語行動達成のための言語知識を補います。



<相手の話を聞くときは・・・>

・自分が知っているいい方法・もの・場所などを教えてあげたい

でも、その前に・・・

・自分が知っているいい方法・もの・場所などを、相手が知っているか確認する

→〇〇って {ご存じですか？/知ってますか？/知ってる？}

【Ⅱタスク1】

①タスクカードが読めない人もいるので、やさしい日本語で話すように伝えます。ここでは、「こんなときあるよね。どうしましょう。」と問いかけるだけにしておきましょう。まずは各グループで考えてもらいます (②③)。

第2回 おすすめが着えた!

タスク 1

いまは11月。そろそろ年末です。
 あなたは日本語教室のクラスメイトたちと忘年会をやりたいと思っています。
 高崎周辺でいいお店はないか、みんなで相談したいと思います。

- ・どんなことを話し合いますか?
 →参加する人(人数)、お店の種類、時間帯・・・、それから?
- ・もし、自分が話したお店について相手が知らなかったらどうしますか?
 店：店の種類、場所、行き方、雰囲気、味、値段、知った理由、行ったときの経験など
 料理：材料、味、作り方、食べ方、珍しさなど



【食べに行くならここ! → _____】

1	なんという食べ物ですか?	
2	どこが良いですか?	
3	どこにありますか?	
4	どうやって行きますか?	

④グループでの話し合いの後、みんなの前でロールプレイをします。話す相手は指導者でもその他の学習者やボランティアでもかまいません。もしうまくまとめて話すことができなかつたときはこの表を使いましょう。質問に順番に答えて行くことで自然にまとまりのある話になります (⑤)。
 ※メモは何語で書いても(書かなくても)良いです。

★他に、クラスみんなに聞いてみたいこと(知りたいこと)
 → _____

⑥タスク1がすんなりできたら、場面を変えた同じ種類のタスクも投げかけてみましょう。

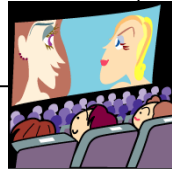
【Ⅲタスク2】

タスク2でも①～⑤の順に進めます。
タスク2はタスク1に比べ少し難しい
ものになっています。ここでの例で言
うと単に自分が良いと思う物を伝える
だけでは達成されず、「おすすめの理由
を言う」が必要になります。

◆◆◆ タスク 2 ◆◆◆

あなたは映画が大好きです。

この間 観た映画がとても良かったので、友達にも観てほしいと思っています。



• どんなことを話しますか？

→ 映画が作られた国、ジャンル、俳優、監督、ストーリー・・・



⑥タスク2もすんなりできたら（ある
いは、興味を示さなかったら）その他
の場面で話し合しましょう。

☆こんなときはどうしますか？

→ 相手が知らない（だろう）ことについて話す

• 遊びに行く場所

• 料理

• ドラマ、小説、漫画の内容

• 家電製品

• 新しく買ったもの（洋服、アクセサリなど）、場所



<<今日の言葉>>

1課につき、2ページ分ぐらいの言葉のページを設けています。当日のタスク達成の際に必要なであろう文型や（定型）表現・語彙などをまとめていますが、生活者としての外国人の言語知識は幅が広いのであくまで想定内ものだけ挙げています。従って、授業の中で各グループから新しい言葉が出てきた場合は板書をして共有すると良いと思います。


今日の言葉

◆話題について、相手が知っているかどうか確認する

① [] (というのがあるんですけど)、(知ってますか? / ~なことありますか?)

例1) 辞書には「おっきりこみ」というのがあるんですけど、召し上がったことありますか?

例2) 高橋に「ムアンタイ」という店があるんですけど、知ってますか?



② [] って [] んですけど、 [] んです。

店: 店の種類、場所、行き方、雰囲気、味、値段、知った理由、行ったときの経験など
料理: 材料、味、作り方、食べ方、珍しさなど

例1) 「おっきりこみ」ってうどんみたいなものなんですけど、味が濃まって、とても美味しいです。

例2) 「ムアンタイ」ってタイ料理屋さんなんですけど、高級ではさすがにありません。

例3) この間、ネットでたまたま見つけたんですけど、行ってみたら雰囲気も良くて・・・

例4) 群馬では普通に食べんですけど、他の地方ではあまりみないんです。

③ [] (みたいな / ~のような / ~に似ている / ~に近い)

例1) 「うどん」みたいな食べ物

例2) 「居酒屋」のようなお店

例3) 「お好み焼き」は韓国に「チヂミ」に似ている

例4) 「バス」に近い感じ

◆道・場所の説明

① [] の「となり / 向かい / 近く」にあるお店です。

例1) ベイシアのとなりにある店です。

例2) 大学の近くにいます。

例3) ヤマダ電機の向かい側にあります。

【道順の説明】

① いまの場所 : [] から出て [] 駅から出て / ここから出て

② 方向 : (右 / 左) に曲がって / 信号を渡って、行く

例) 信号を渡って、まっすぐ行きます。

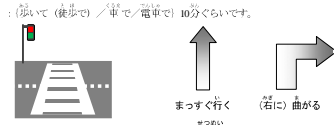
③ 大きな建物 : [] たら、[] 曲がる / 行く

例) コンビニが見えたら、そこを左に曲がります。

④ お店の場所 : [] たら、(右側 / 左側 / 向かい側 / 角) にある

例) 5分ぐらい行ったら、右側にお店があります。

⑤ かかる時間 : (歩いて (徒歩) / 車で / 電車で) 10分ぐらいです。



◆自分の知っていることについて、わかりやすく説明する

基本的な情報 / 聞んですけど、感想・雑談です。

① A: 最近やってる「モンスターズ」ってドラマ、観てますか?
B: いや、聞いたことはあるんですけど、面白いですか?
A: 松岡修造と山下智久が出てるんですけど、だんだん面白くなってきてるんです。
B: ええ、ちょっと観てみようかな。

② A: ケータイ電話、変えようかな・・・
B: あ、そうですか、何にするんですか?
A: OOがいいなあと。でも、ちょっと利用料金が高くて迷ってます。
B: あ、それ。私も使ってます。スマートフォンですよ。
最初は戸惑いますが、慣れれば意外と便利です。ネット検索も早いんですよ。

<<次回の予告>>

週1回程度の学習だと、すぐに忘れてしまうことがあるので、次回の予告は絵や写真で入れています。宿題を出しても回収率が悪いので、絵を見て「来週は多分こんな話かな」ぐらいの気持ちで気に留めてもらえるようにしました。

来週のお話は～




【振り返り・学習の記録】

「今日勉強したこと」とは、学習の記録用のシートです。最後の振り返りの時間に、外国人受講者と同じグループで話し合いをしたボランティアやその他の外国人受講者との話し合いのときに使います。使い方は、隣同士で、今日勉強したこと（(1)～(5)）ができるかももう一度簡単に会話してみたり、ロールプレイをしてみたりして「できる4—まあまあできる3—少しできる2—できない1」の評価をし合います。すべてのCan-doをもう一度行う時間はないので、グループでの練習・クラス全体での発表でうまくいったものは授業を思い出して付けてもらおうと良いでしょう。あまりうまく行かなかったものにもう一度チャレンジする機会として使えると思います。

今日、勉強したこと		あまりできない—まあまあ普通—よくできた 1 — 2 — 3 — 4
(1)自分だけが知っていることを話すとき、まず相手がそれを知っているかどうか聞くことができる	私 : 1 — 2 — 3 — 4 ボランティア : 1 — 2 — 3 — 4	
(2)相手に自分がほしい情報(おすすめのもの・場所など)を聞くことができる	私 : 1 — 2 — 3 — 4 ボランティア : 1 — 2 — 3 — 4	
(3)相手の意見(ほしいもの・こと)を聞いて、おすすめを言うことができる	私 : 1 — 2 — 3 — 4 ボランティア : 1 — 2 — 3 — 4	
(4)おすすめを言うときに、なぜそれがいいのかわかる理由を説明することができる	私 : 1 — 2 — 3 — 4 ボランティア : 1 — 2 — 3 — 4	
(5)場所の位置や行き方を説明することができる	私 : 1 — 2 — 3 — 4 ボランティア : 1 — 2 — 3 — 4	

今日勉強して感じたこと

【支援者の皆様へ】

(1)～(4)ができるようになることが今日の目標です。
ボランティアの方はこれができるように話を進めてください。
※より、詳細に話したら「4」に近いと考えてください（何となくわかる・理解できるであれば2～3です）
※なるべく一般的に使う、やさしい日本語で話してください。
※グループで作業をするときは、学習者の発話を多く引き出すことを意識して接してください。
※学習者から発話が出てこないときは、新しい言葉を教えたり、書いてあげたりしてください。

【備考】その他、気づいたことがありましたら書いてください。
著しく誤用（間違い）が気になるときは、何が気になるか書いてください。

※今回の教材を提出するときはこのシート（今日勉強したこと）は添付していません。教材をリヴァイズしてお使いの際に新しく作成されると良いと思います。

(7) 成果物の添付 全10回分でページ分量が膨大となるため、別添にて提出する。

※問い合わせ先: gunma.japanese@gmail.com（群馬県日本語教育支援政策研究会、森）

8. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的

本事業は、群馬県内に定住する外国人住民を対象とし、生活上の行為に不可欠な日本語能力の習得及び運用能力の向上を目的とした日本語教室を設置し、また、そこで活動する支援者の育成、および、教材開発を通して、地域日本語教育の推進を図ることを目的とした。

群馬県内の地域日本語教室では、「生活者としての外国人に適した教材・リソースの不足」「日本語教育に関する専門知識と指導技術に関する不安」といった課題を抱えており、それらの課題を解消するためには、人材養成を柱に、日本語教室と教材作成を連動させる必要がある。そのため、本事業では、[1]日本語教育を行う人材の養成・研修「ともに学ぶ・ともに作る」、[2]日本語教室の設置・運営「日本語でできた！2012」、[3]日本語教育のための学習教材の作成「日本語でできた！2012」の3事業を連動させて行った。

(2) 目標の達成状況・事業の成果

人材育成と実際の教育現場を結びつけることで、研修参加者は「どのような指導法か、教材は何か、教材の使い方はどうか、クラス運営はどうか、参加者のそれぞれの役割はどうなっているか」などを実際にみることができ、座学にはない経験が得られた。教室内容や教材について学べる環境を提供したことで、最終的には自ら教室活動を想定した教材を作成することができた。

本事業の3つの取り組みの「事業名」「目標」「達成状況」「成果」は以下のようにまとめられる。

事業	[1] 人材の養成・研修	[2] 日本語教室	[3] 教材作成
目標	①地域日本語教育の基礎的な知識の修得 ②「タスク積み上げ型」の考え方や手法の理解(日本語教室：日本語でできた！への参加) ③上記①②の理解を基に、各地域の活動で使える教材の作成	①生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成 ②学習者・支援者が共有できる評価方法の考案 ③「タスク積み上げ型」日本語教室の手法を理解し、実行できる人材の育成	①生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の育成に資する教材 ②学習者・支援者が共有できる評価につながる教材 ③「タスク積み上げ型」日本語教室の手法を基づく教材
達成状況	①②③：受講者を対象としたアンケート調査で一定の評価が得られた	①：教室開始前のインタビューテスト(1人10分)よりも、日本語教室終了後のインタビューテスト(1人10分)のほうが、参加者全員、成績が良かった ②学習記録「今日勉強したこと」	①②③：事業[2]で使用する教材が作成でき、また、事業Bの目標も達成できたので、本事業も達成できたと言える

		への記入によって確認できた ③: 事業[1]の②③を参照	
成果	①と②: 地域日本語教育の基礎的な知識を持ち、「タスク積み上げ型」の考え方や手法を理解した日本語支援者の養成 ③: 受講者の作成した教材	①: 参加者(生活者としての外国人)の生活上の課題を解決するための日本語コミュニケーション能力の向上 ②: 学習記録「今日勉強したこと」(10回分) ③: 事業[1]の成功	①②③: 本事業で作成し、事業[2]で使用した10回分の教材

本事業では、3つの取り組みを連動させることで、従来にない成果が見られた。

特に、事業[1]人材養成・研修の目標②と③は、事業[2]日本語教室に参加することで、大きな効果があった。また、事業[2]日本語教室の目標③は、事業[1]の目標②③と共通するものであり、それぞれに成果を共有できた。また、事業[3]教材作成は、事業[2]日本語教室での使用を前提とするものであり、この2つの事業も同時並行して行われ効果的であった。

(3) 標準的なカリキュラム案の地域での活用について

『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』は、主に事業[2]日本語教室のシラバス、教材、自己評価チェックリストの作成時に参考とした。

具体的な箇所は、『カリキュラム案』の生活上の行為の事例の大項目である「Ⅲ.消費活動を行う・Ⅳ.目的地に移動する・Ⅶ.人とかかわる・Ⅷ.社会の一員となる・Ⅸ.自身を豊かにする・Ⅹ.情報を収集・発信する」であり、これらを参考にし、シラバス、教材、自己評価チェックリストの作成を試みたが、なかなか容易には行かなかった。その理由として、このカリキュラム案は、「具体的で身近な話題かそうでないか」、「慣用性が高いか否か」、また、「難易度の高低」が示されていないことなどがあげられる。日本語教育の専門家にとっては、それらは専門的な知識・技能・経験でカバーできるが、地域の日本語教育支援者にとっては、このカリキュラム案をもとに具体的な教室活動の方法や教材を作成することは容易ではない場合も多い。

本事業では、『カリキュラム案』の中から、対象となる生活者としての外国人のニーズに合った生活上の課題を解決するために必要と考えられるものをベースに、言語行動の頻度、汎用性、慣用性、及び、学習項目の難易度と項目同士の関連性を考慮に入れて部分的に活用した。特に教材は、地域日本語教室の一般的なタームである3ヶ月・10回の学習時間で活用できるようにした。また、学習者の参加の継続性を考慮し、モジュール型であるが、1回目に比べ10回目の方が言語的やり取りがより高度になるよう配置した。文字言語へ不安のある外国人受講者への配慮として視覚ツールを豊富に盛り込み、教室外での他者とのやり取りを想定したロールプレイを随所取り入れている。

なお、事業[1]人材養成・研修では、生活者としての外国人のニーズを知るため、生活上の行為を通観し、どの行為に日本語能力が関わる困難点があるかを考えた。そうしたところ、受講者からは、「膨大なリストでどう使いいいか困っていたけど、言語行動をタスクとして捉えると、自分でも組

み立てられそう」「標準的なカリキュラム案を参考にしながら教材を作っている」といった感想が寄せられた。

(4) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

本年度は、群馬県教育委員会・高崎市国際交流協会・NPO 法人伊勢崎日本語ボランティア協会の方に運営委員として参加してもらった。研修では講師として、それぞれの地域の現状や課題等と話してもらい、受講者に地域や立場を超えて共通する課題があることや、逆に、同じ地域日本語教育を行っていても地域によって、異なる取組みや課題があることを伝えることができた。また、日本語教室やボランティア研修の広報も積極的に行ってもらい、両団体に所属する方々に強くアピールすることができた。

(5) 改善点、今後の課題について

上でも述べたように、3つの事業内容に関してはおおむね問題はなかった。しかし、実施体制について、特に、研修会場については課題が残る。これも繰り返しになるが、群馬県のように公共交通機関が発達しておらず、自家用車で移動が中心であり、かつ、移動距離が長い地域では、研修会場をどこにするかが大きな問題となる。人材養成・研修は、群馬県玉村町の群馬県立女子大学で研修を行ったが、隣接する高崎市、伊勢崎市、前橋市などに在住する方しか現実的には受講できなかった。また、日本語教室は、群馬県では比較的交通アクセスの良い高崎駅に近い会場で行ったが、いずれの会場にも、自動車でも1時間程度、もしくは、それ以上かけて会場に集まってくれた。そのため、このような事業を行う際には、やはり、同じ内容を複数の会場で行う必要があると思うが、時間と講師の手配を考えると難しいと思われる。

(6) その他参考資料

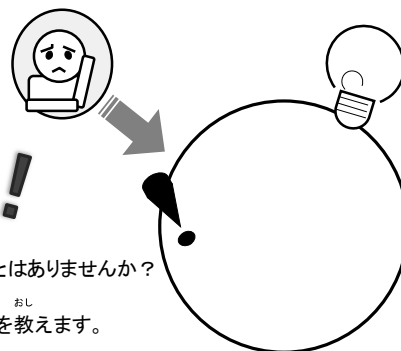
参考資料は本文中に書き入れたので、それらは割愛する。なお、それぞれの事業の募集チラシのみ以下に挙げる。

資料1 (日本語教室のチラシ)

<表>

平成24年度文化庁「生活者としての外国人のための日本語教育事業」
にほんごきょうしつ
日本語教室

日本語でできた!



いままで「日本語じゃちょっと…」とか、「もっとうまく話したいのに…」と思ったことはありませんか？

ぐんまけんりつじょしだいがく たかさきけいざいだいがく にほんごせんせい せいかつひつよう にほんごおし
群馬県立女子大学・高崎経済大学の日本語の先生が「生活に必要な日本語」を教えます。

◆この日本語教室では、いろいろな人と日本語でコミュニケーションができるように勉強します。

◆いままで、日本語でうまく話せなかったことが言えるようになります。

<時間と曜日>

まいしゅう きんようび 毎週 金曜日 18:30~20:30 ぜんぶでかい ぜんぶで12回					
① 10/26	② 11/2	③ 11/9	④ 11/16	☆ ⑤ 11/21	⑥ 11/30
⑦ 12/7	⑧ 12/14	⑨ 12/21	⑩ 1/11	⑪ 1/18	⑫ 1/25 パーティー

<来てほしい人>

(この教室の日本語のレベル)

- ・1回目から最後まで全部来られる人
- ・休まない人
- ・申し込みシートにある4つの会話が
- ・ぜんぶ分かる人

<場所>

たかさきしあずまち
高崎市労使会館(〒370-0045 高崎市東町80-1)

高崎駅「高崎駅」東口から歩いて8分くらいです。車で来ても大丈夫です。

11月9日は、高崎駅前の東横インでやります。

11月21日は、水曜日に勉強します。

<必要なお金>

ぜんぶで500円

<申し込み>

E-mailか電話で、【10月20日】までに申し込んでください。できればE-mailを使ってください。

◆E-mail gunma.japanese@gmail.comに、申し込みシートの写真を撮って、送ってください。

◆電話 分からないことがあるときは、〇〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇に電話してください。

☎電話は朝10時から18時までにご覧ください。

主催：群馬県日本語教育支援政策研究会

後援：群馬県観光物産国際協会(予定)

<裏>

日本語教室「日本語でできた!」申し込みシート

名前	[]	性別	{男/女}
仕事	[]	年齢	[] 歳
住所	群馬県 [] 市・町・郡 []		
電話番号	[- -]		
メール	[@]		
国	{中国・台湾・韓国・フィリピン・インドネシア・ベトナム・ タイ・ペルー・ブラジル・マレーシア・その他()}		
いつ日本に 来ましたか?	[] 年・[] 月 ([] 年ぐらい前)		

いままで日本語を勉強したことがありますか? (□に✓を書いてください。)

- (1) 自分の国で勉強しました。[日本語学校/日本語教室]で [] 年(月ぐらい)
- (2) 日本で勉強しました。[日本語学校/日本語教室]で [] 年(月ぐらい)
- (3) 自分で日本語の勉強をしました。[] 年(月ぐらい)
- (4) 日本語学校や日本語教室で勉強したことはありません。

右の(1)~(4)の会話は、いくつわかりますか? (□に✓を書いてください。)

- (1) A 今度の日曜日どこかへ行きますか?
B 家族と東京へ買い物に行こうと思います。
- (2) A 先週の旅行はどうでしたか?
B 道が混んでいてずっと運転していたので、疲れました。
- (3) A すみません、郵便局はどこですか?
B あの角を右に曲がって100メートルぐらいのところですよ。
- (4) A 昨日からお腹が痛いんですが、どの薬がいいですか?
B それならこの薬がいいですよ。1日3回、食後に飲んでください。

全部書いたら、よく見えるように携帯のカメラで写真を撮って、
 gunmajapanese@gmail.comに送ってください。
 件名(subject)に「日本語でできた」と書いてください。



資料2 (ボランティア研修のチラシ)

平成24年度 文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

ボランティアを対象とした実践的研修「ともに学び・ともに作る」

募集要項

「群馬県日本語教育支援政策研究会（代表：伊藤健人（群馬県立女子大学准教授）」では、文化庁の委託（「生活者としての外国人」のための日本語教育事業）を受け、地域日本語教育・支援に携わるボランティアを対象とした実践的研修「ともに学び・ともに作る」を行うことになりました。

1 目的

生活者としての外国人に対する日本語教育支援に携わる方を対象に、地域の日本語教室に適した日本語教育の手法や教材作成に関する研修を行います。

2 内容

全 15 回の講義と実習(実際の日本語教室に 3 回程度参加予定)を通して、本研究会で開発・実践している「タスク積み上げ型」の知識や技能の習得を目指します。

3 日程 平成 24 年 10 月 9 日(火)から平成 25 年 2 月 5 日(火)の講義 15 回および実習 3 回

【講義】 毎週火曜日 16:30～19:30 (180 分)

① 10/9	地域日本語教育の基礎知識(1)	⑨ 12/4	教室活動(4)
② 10/16	地域日本語教育の基礎知識(2)	⑩ 12/11	教室活動(5)
③ 10/23	地域日本語教育の基礎知識(3)	⑪ 12/18	教材作成(1)
④ 10/30	地域日本語教育の基礎知識(4)	⑫ 1/15	教材作成(2)
⑤ 11/6	地域日本語教育の基礎知識(5)	⑬ 1/22	教材作成(3)
⑥ 11/13	教室活動(1)	⑭ 1/29	教材作成(4)
⑦ 11/20	教室活動(2)	⑮ 2/5	教材作成(5)
⑧ 11/27	教室活動(3)	これら 15 回の講義に加え、以下の 3 回の実習	

【実習】 以下の 5 回の金曜日の日本語教室のうち 3 回程度に参加予定

11/16(金)、11/22(金)、11/30(金)、12/7(金)、12/14(金)の 18:30～20:30

4 会場

※「講義」と「実習」とは会場が違うのでご注意ください。

【講義】 群馬県立女子大学 地域日本語教育センター

〒370-1127 群馬県 佐波郡 玉村町 上之手 1395-1

※無料駐車場あり 地図等の詳細は群馬県立女子大学の HP をご覧下さい

【実習】 高崎市労使会館 (〒370-0045 群馬県 高崎市 東町 80-1)

5 参加費用 研修への参加費用は無料です。

(会場までの交通費は各自ご負担ください)

- 6 講師** 大学教員(県立女子大学・高崎経済大学)、国際交流協会職員、日本語教育専門家など

7 応募要項 (受講者要件)

ボランティア日本語教室での活動に携わっている方、また、今後活動をする予定の方

【応募方法】

- ・Eメール (————@————) でお申し込みください。
- ・件名は、「ボランティア研修の申し込み」としてください。
- ・メールの本文には、以下の(1)～(9)の項目を書いてください。

件名： ボランティア研修の申し込み
担当： 群馬県日本語教育支援政策研究会・森
項目 (1)～(9)
(1)氏名(ふりがな) (2)勤務先/所属団体 (3)職名(あれば)
(4)住所 (5)電話番号 (6)メールアドレス
(7)日本語教室運営関連・指導補助歴等 (活動期間、活動先、内容等)
(8)日本語教育に関する経験・資格等 (研修参加、検定試験合格、420時間修了等)
(9) 応募動機

なお、応募書類の個人情報は厳重に管理し、本講座および関連事業以外の用途には使用しません。

【連絡先】

群馬県日本語教育支援政策研究会まで Eメール(————@————)でご連絡ください。

【締切】 2012年10月5日(金)

【定員】 15名程度(定員を超えた場合は応募書類をもとに選考いたします)

- 8 主催** 群馬県日本語教育支援政策研究会 (代表：伊藤健人 (群馬県立女子大学准教授))
後援 (財)群馬県観光物産国際協会